第12講

意見・根拠の紡ぎ方(3)

対立する物事を批判する
【反論・再反論】

チャプター1　レクチャー①　反論と再反論

チャプター2　レクチャー②　譲歩構文

ポイント

　自分の意見や根拠、展望を論じるとき、他者から(　　　　　　　　)されることがある。自分の主張の(　　　　　　　　)性が否定されることになる。

　こうしたときはあらかじめどのような(　　　　　　　　)を受けるのかを想定することからはじめよう。

　対処の一つに、想定した(　　　　　　　　)を反論して、相手からの反論を食い止めるということが考えられる。

この手続きを「(　　　　　　　　)」「反駁(はんばく)」という。

　再反論・反駁をした上で、自分の主張の(　　　　　　　　)性を述べよう。

チャプター3

問題およびヒント

問題を見てみよう

　あなたは夫婦同姓(結婚すると夫婦は夫または妻の姓のいずれかを共通の姓としなければならないとすること)の制度に賛成ですか、反対ですか。あなたの考えを400字以内で述べてください。

(岡山商科大学　推薦　2017　改題)

生徒メモ欄

教員記入欄

解答案をつくってみよう

(　　　　　字)

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
５段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見の関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

答案例①

　夫婦別姓を認めるべきだとの議論がさかんになっているが、私は夫婦同姓制度に賛成だ。確かに、結婚を機に多くの公的名義を変更する手続きは手間であり、大概の夫婦は夫姓を名乗ることが慣習となっていて、これはジェンダー不平等の一つだとも思う。だが、夫婦の姓は子どもができた時に別の意味を持つと思うのだ。

　両親が別姓の場合、子どもは両親どちらかの一つの姓を選んで名乗ることになる。名前は幼稚園に入園する時に始まり大人になるまでずっと呼ばれ続けるもので、たくさんの書類に記入することになる。その度に、別の姓の親の方との繋がりの無さが心に刻み込まれてしまうと思う。大人の都合やジェンダーに対する価値観から別姓にして、子どもの自我を限定することは良くない。また、現在の国や生活の制度やサービスは、ほとんどが同姓を前提として成り立っているので、今から変えると混乱するのでやめた方がよい。

(397字)

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見の関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

答案例②

　私は、夫婦同姓の制度に反対だ。なぜならそれは結婚しても名字を変えたくないとお互いが考えている場合、やむなく名字を変えなければならなくなった人の自由を奪っていると言えるからだ。人は、生まれながらにして自由に生きる権利があり、自分の名字に関しても自由に選ぶ権利があるはずである。

　また、男女の平等を進めていくためにもこのような仕組みは変えていくべきである。これまで、女性の結婚に対して「家庭に入る」という表現が使われてきたし、今でも使われることはある。しかし、現在、このような「男は外で働き、女は家庭を守る」という家族の捉え方は前時代的なものとなりつつある。そして、結婚に際して女性が名字を変えるということはそのような風潮のシンボルの一つとしてあるようにも思う。男女平等を実現していくためにも、現在の夫婦同姓を強要するような制度から変えていくべきなのではないだろうか。

(385字)

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見の関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター6

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことをブラッシュアップするために、
おすすめ書籍情報や本の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄